

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

御嶽山では、火山灰を噴出するような噴火が継続しているものと推定され、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、振幅の増減を繰り返し、小さいながらも継続しています。

【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

○ 活動状況

・微動の発生状況（図 1）

噴火発生前の 11 分前の 9 月 27 日 11 時 41 分頃から連続して発生していた火山性微動は、振幅の増減を繰り返しています。10 月 1 日 19 時頃からは検知できない程度の大きさになりましたが、10 月 2 日 19 時 30 分頃から再び観測され始めました。昨日（5 日）、16 時頃と 19 時 20 分頃に振幅が一時的に増加しましたが、21 時頃以降は昨日（5 日）16 時以前の状態に戻っており、その後振幅は小さいながらも継続しています。地殻変動等他のデータに、昨日（5 日）の振幅の一時的な増加に伴う特段の変化は観測されませんでした。

噴煙の高さは 15 時 30 分現在、視界不良のため不明です。

現地調査を行っている気象庁機動調査班（JMA-MOT）が、10 月 2 日や昨日（5 日）に山麓でわずかに降灰を観測していることから、火山灰を噴出するような噴火は継続しているものと推定されます。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、火山性微動の振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。

・地殻変動の状況（図 2）

剣ヶ峰の南東約 3 km に設置している傾斜計¹⁾に、4 日 13 時頃から山側上がりのわずかな変化がみられましたが、昨日（5 日）08 時頃から横ばいの状態となり、その後 4 日 13 時以前の状態に戻ったものとみられます。この期間にみられた変動の大きさは、噴火直前の数分前に観測された変動の大きさと比較すると約 100 分の 1 程度でした。

GNSS²⁾などの観測データに特段の変化はみられません。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 マイクロラジアンは 1 km 先が 1 mm 変化する量です。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

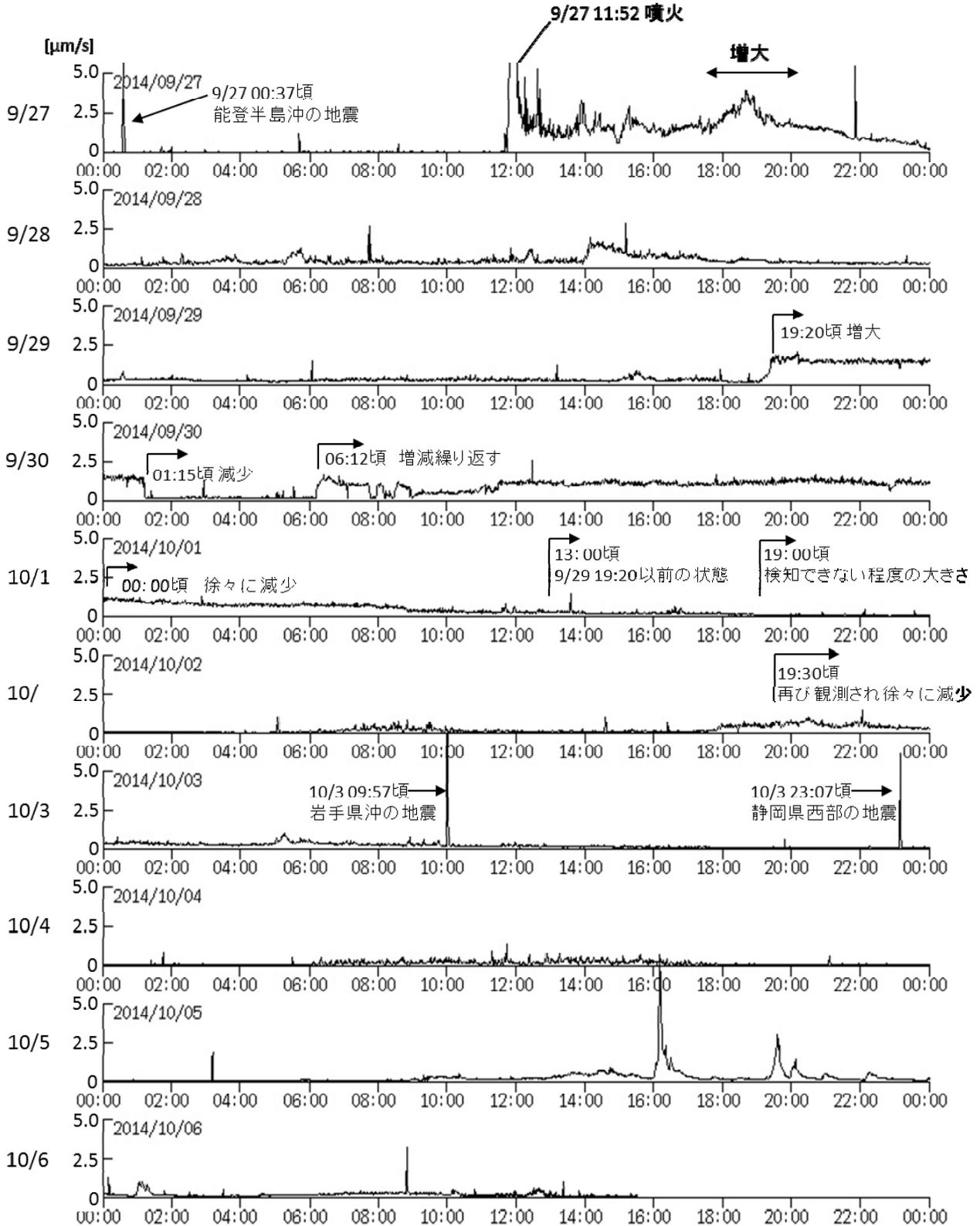
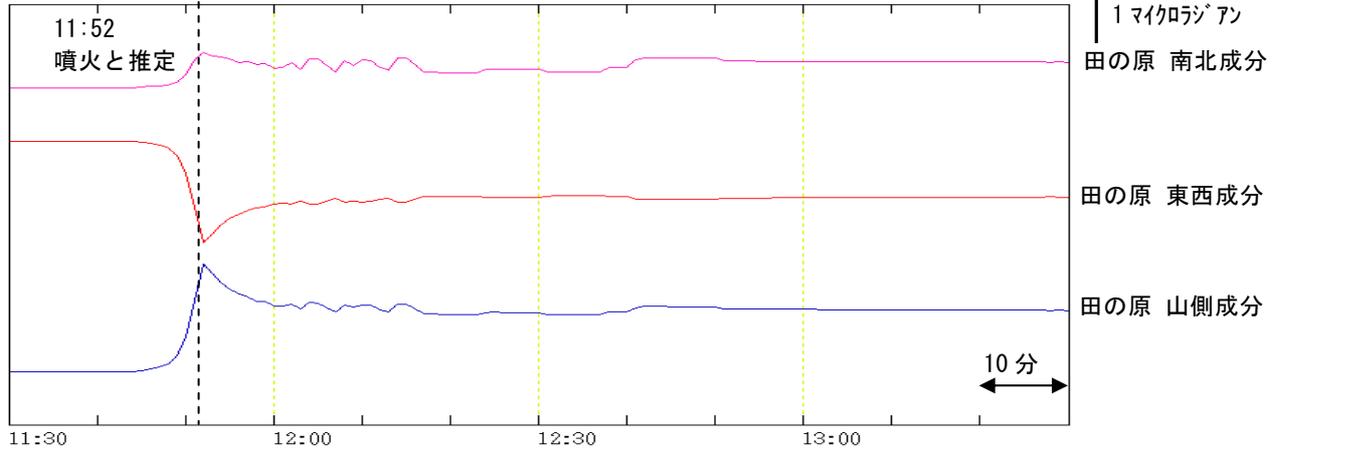


図 1 御嶽山 田の原上観測点（剣ヶ峰南東約 2 km）の上下動地震波形の 1 分間振幅平均値の推移（2014 年 9 月 27 日 00 時～10 月 6 日 15 時 30 分）

- ・連続して発生している火山性微動は、増減を繰り返して継続していました。10 月 1 日 19 時頃からは検知できない程度の大きさになりましたが、10 月 2 日 19 時 30 分頃から再び観測され始めました。昨日（5 日）、16 時頃と 19 時 20 分頃に振幅が一時的に増加しましたが、21 時頃以降は昨日（5 日）16 時以前の状態に戻っており、その後振幅は小さいながらも継続しています。

田の原観測点の傾斜データ（分値）

【噴火時の変化】 9/27 11:30 - 13:30



【3日10時以降の変化】 10/3 10:00 - 10/6 13:30 縦軸を20倍に拡大

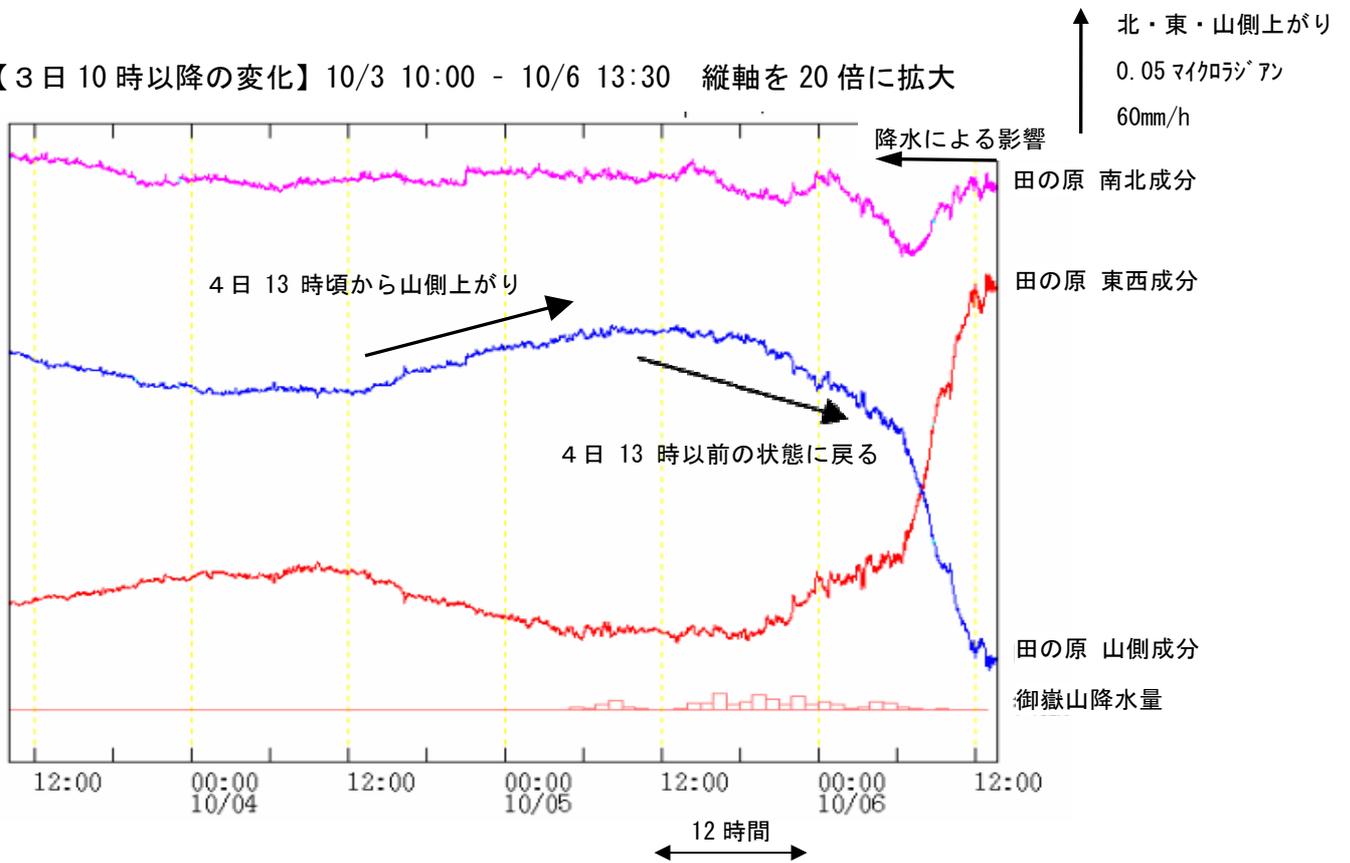
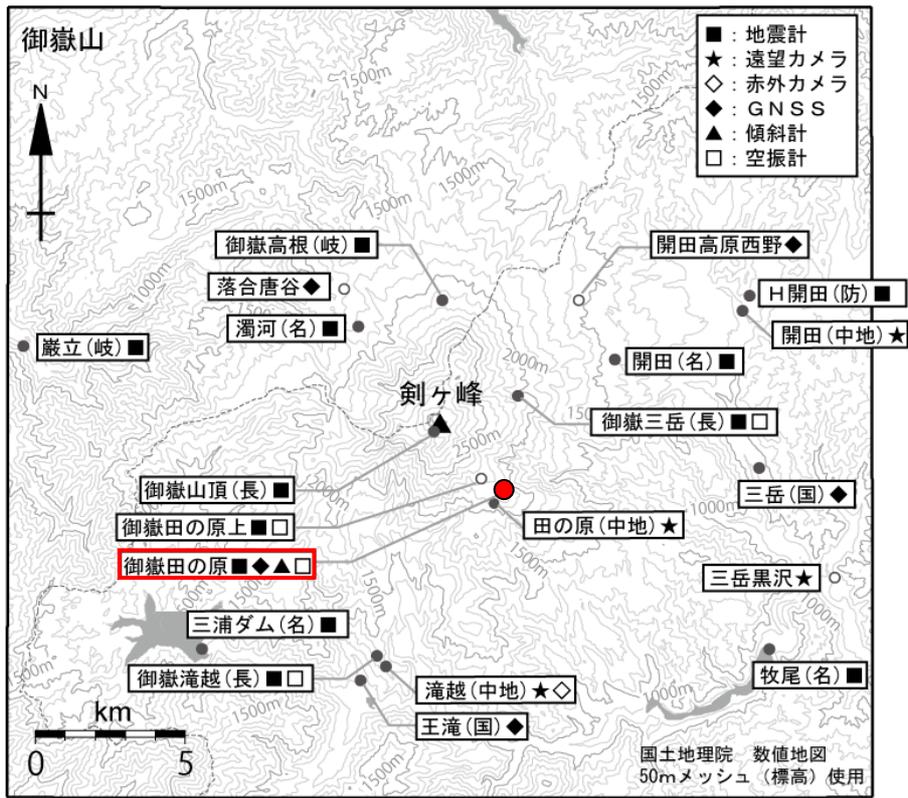


図2 御嶽山 田の原観測点（剣ヶ峰南東約3km）の傾斜変動

- ・ 剣ヶ峰の南東約3kmに設置している傾斜計に、4日13時頃から山側上がりのわずかな変化がみられましたが、昨日（5日）08時頃から横ばいの状態となり、その後4日13時以前の状態に戻ったものとみられます。この期間にみられた変動の大きさは、噴火直前の数分前に観測された変動の大きさと比較すると約100分の1程度でした。
- ・ 本日（6日）06時頃からみられている変動は降水によるものとみられます。
- ・ 「田の原 山側成分」は、東西・南北の各成分の山側方向の成分を合成したものです。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(中地)：中部地方整備局、(防)：防災科学技術研究所、(名)：名古屋大学、
 (長)：長野県、(岐)：岐阜県

図3 御嶽山 観測点配置図
 赤丸と赤枠は傾斜計を設置している田の原観測点です